

電車道のアベで親しまれる道路に残るトンネル



成田
歴史
玉手箱

●45回●

歴史と伝統文化の
まち・成田。市内に
は、歴史ある文化財
が多数あります。



写真上…関東大震災にも耐えた煙突
写真下…㊦の字の刻印がある安西煉瓦



三里塚小学校の正門

大正12年9月1日の関東大地震によって耐震性が弱点となりその後需要が激減した煉瓦。しかし、明治時代末期、市内には煉瓦場という地名が成田小学校付近にあたり、利根川

の台座などはこの煉瓦で造られたものです。この排水機場は、明治43年の大洪水がきっかけで建設され、印旛郡で初めて動力エンジンを使用した画期的な排水機場でした。このほか現存する煉瓦建造物には鉄道に関係するものが二つ残っています。一つは三里塚小学校の正門です。明治44年、成田 三里塚 多古間を走った成田鉄道多古線(通称軽便鉄道)の工事を行った旧陸軍の鉄道連隊が三里塚に駐屯したときの兵舎の門を移築したものです。もう一つは成田幼稚園(上町)前の二つのトンネルです。明治43年、県内最初の電車として成田山門前と宗吾堂間を走った成宗電車のトンネルで、天井には今も架線金具や碍子が付いていて往時を偲ばせてくれます。

りの安西地区には数軒の瓦や煉瓦を焼いていた家がありました。最盛期には十日川が利根川に流れ込む河口付近に煉瓦を積み出す河岸があったほどで、一世を風靡したものでした。

表面に㊦の字の刻印がある安西煉瓦は、この地区特有の黒粘土が煉瓦焼成に向いていることに目を付けた煉瓦職人の手によって焼かれたものでした。和田の吉岡隆さん宅(中郷)の元醤油工場の煙突や、大正2年に完成した安西排水機場の煙突

一方、現在その姿を見ることができない煉瓦建造物として、煉瓦舗装道(仲町) 火力発電所(東町・閉鎖後は製氷場として利用された) 旧若松本店(仲町) 旧成田図書館書庫(田町) 旧学習院初等科正堂の基礎部分(建物は房総のむらに移築)などが挙げられます。かつて煉瓦道だった仲町坂道の改修工事は昭和41年に始まり、成田山新勝寺の大本堂の落成を2年後に控え、損傷が著しかった道は惜しまれつつ現在の舗装道路に姿を変えました。



昭和29年の合併直前の仲町の煉瓦道と町並み(千葉県文書館所蔵)

こうして一つひとつ街中から煉瓦建造物が消えていく中、風雪に耐えながら明治・大正・昭和・平成の四時代を生き抜いた遺産は心の中から捨て去ることができません。

市内の煉瓦建築

今も残る明治・大正時代の遺産

編集後記

本市が成田ナンバーの新設(5ページ)を進めているのをご存知でしたか。当初考えていたのは「成田」ではなくローマ字の「NARITA」ナンバー。しかし、国土交通省の「地域名は漢字二文字」という原則の前に「成田」で再出発したもの。他県

に出掛けた際、千葉ナンバーを見ると親近感をもつのは事実。これが「成田」となれば声を掛けずにはいられなくなりそうです。地域の連帯意識を高め、知名度アップを図るためにも、ぜひご当地ナンバーを実現させたいものです。